

この和訳文は、日本学術会議及び北極科学委員会が作成したものです。

高円宮妃殿下のお言葉
科学シンポジウム ISAR-4/ICARPIII

2015年4月27日
富山国際会議場

このたび富山の北極科学サミット週間（ASSW）に、皆さまとご一緒できることを光栄に存じます。以前から存じ上げている多くの方々のお顔があり、そしてもちろん初めての方々もたくさんいらっしゃいます。諸外国から日本にお越し下さったすべての皆さまに、心より温かい——北極を冠するサミットではありますが——歓迎の意を表します。北極や南極関係の諸機関の会合に出席するたびにいつも組織や会合の様々な略称に戸惑ってしまうのですが、この富山サミットも、さっそく前例を一つ増やしたようですね。

私が北極と最初の関わりを持ったのは1990年代の後半でした。宮さまとご一緒にカナダ北部を二回、グリーンランドを一回訪れる機会があったのです。そして1998年に、私は氷山に関する子供向けの本を書こうと決心しました。「教育的」な本にしたい——というのも、私自身3人の子どもの子育てのさなかにもありましたから——、そして同時に科学の専門家の方が自分の子どもや孫に買い与えたいと思うような本にしたいと強く思いました。精確な情報を得るため、多数の研究者の方々にお話をうかがうことが必要でした。そうしたなかの一人ピーター・ワダムズ氏の紹介で、私と子どもたちは、しばしば国立極地研究所を訪れるようになりました。『氷山ルリの大航海』と題した本は、グリーンランドで生まれた「若い」氷山が、南極の年長の氷山たちに会うために旅に出るというストーリーです。用語解説では氷床コアリングも取り上げ、氷の中に驚くほど膨大な量の情報が封じ込められていることに言及しました。このことは専門家の方々にも喜んでいただけると存じます。

近年、北極が劇的な変容を遂げていることは私たち皆が目に見しているところです。環境の急速な変化は、北極の野生生物と、自然界との共存に根差したライフスタイルを持つ先住民族の人々の双方に、大きな犠牲を強いています。私たちは、より迅速に、より組織化された方法で、行動を起こさなければなりません。

先ごろ、北極圏植物相・動物相保存作業部会の最新の北極生物多様性評価に目を通す機会を得ました。緊急優先事項の1つは、今後起こるであろう事態に対

する北極生態系のレジリエンス（回復力）を最大化することのようです。北極の野生生物に関しては、生息地の——それも、十分に広大な面積の土地の——効果的な保護が必須です。地球の温暖化によって北極の資源の抽出と搬出の可能性が開かれており、このことは必ずや生息地の破壊や汚染や狩猟につながるでしょう。人類が自らの蓄えの宝庫を略奪し、地球の資源すべてを失ってしまう結末にならないよう、私たちは心して対処しなければなりません。

私はバードライフ・インターナショナルの名誉総裁を務めております。鳥類は、人間の目や耳に触れる機会が多く、また他の生物種に比して学術的データの取得や利用が容易なことも多いため、環境指標と位置付けられます。北極で繁殖する渡り鳥を通じて、世界のすべての国が北極とつながっています。これらの鳥類は、北極の状況に関する「炭鉱のカナリア」つまり危険を知らせる警鐘となるでしょう。北極の鳥類の毎年の渡りを手厚く保護し、また北極におけるビジネス活動が高い環境水準を満たすようにすることで、北極の生態を保全することが可能となるでしょう。過熱した近視眼的な開発は戦慄すべき結果につながりかねません。それゆえ、主導的立場にある機関や国々が強いコミットメントと先見の明あるバランス感覚を示すことが不可欠です。

この活動において、科学が重要な役割を果たすことは明らかです。全世界の科学研究者は知識と英知を結集させて、北極そして地球全体に悪影響を及ぼす可能性のある変化について、軽減すべき変化は何か、そして変化に対しいかなる順応が必要かについて、可能な限り明白な理解を得る必要があります。しかしながら、科学だけで問題を解決することはできません。すべての利害関係者（ステークホルダー）——つまり、科学者、政治家、産業界、政府機関と非政府組織、先住民族、そして私たち平均的な人間を含めて、一人ひとりすべて——が、情報と知見を共有し一丸となって取り組む必要があります。そして、忘れてはならないことがあります。多種多様な問題は一国や一組織では解決することはできないけれども、しかし——たとえ1つの国、1つの組織であっても——そうした国や組織が全くないよりも遥かにすばらしいことです。効果は小さくなりますが、それでもゼロよりもましです。

ASSW2015の今年、国際北極科学委員会（IASC）設立25周年の節目にあたり、また今後10年間の北極研究の針路を定めるICARP III（第III回国際北極研究計画会議）も開催されます。これまで、北極地域が直面している様々な問題を解決するために、また北極研究の実施と支援そして促進する様々な方法を探るために数々の会合が重ねられ、その過去の上に、北極科学の全分野における国際的な調整と協調と協力が生み出されています。

世界の目は、今、北に注がれています。サミットにおける英知の集結が多くの
実り多き成果をもたらすことを希望し、この機会をお借りして、地球規模での
北極研究のさらなる進展と地球のこの極めて重要な地域が直面している問題を
解決するための活動が加速化されるよう心より願っております。